

◎特集 / 「学力向上対策事業」について

- 「地域連携ものづくり人材育成事業」
- 「科学の甲子園」全国大会及び山梨大会 ～広げよう科学の輪 活かそう科学の英知～
- 平成26年度インターハイ・煌めく青春 南関東総体2014 ～高校生活動が始動！～
- 平成24年度 新体力テスト・健康実態調査 結果の概要
- 活かそう！山梨の文化力
- 県立美術館 望月春江とその時代
- 博学連携の取り組み ～博物館の挑戦～
- ミュージアム甲斐・ネットワーク／清春白樺美術館、近藤浩一路記念南部町立美術館
- らくがき 丹波山村立丹波小学校 小林裕直 教諭
笛吹市立春日居中学校 一之宮紗映 教諭
- 埋蔵文化財センター「まいぶんイベント情報」
- 学校紹介／甲府市立東中学校、県立甲府支援学校
- 総合教育センター情報／「教育の情報化」への取組について
- 東部地域新設高校の校名募集について
- 県立図書館／交流エリアの各部屋は様々な用途にご利用いただけます
- 山梨の文化財／県指定天然記念物 本遠寺の大クスノキ
- 主な行事予定



特集

「学力向上対策事業」について

— 義務教育課 —

◇平成24年度学力向上対策事業の概要

県では平成二十三年度から「学力向上対策事業」を開始し、ほぼ二年が経過しました。

本事業では、新しい学習指導要領の全面実施にあたって、県下の小・中学校の児童生徒に、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成するとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、本県児童生徒の確かな学力の定着・向上を図ることをねらいとしています。

山梨の子どもたちの学力は、「全国学力・学習状況調査」の結果から、全国と同様に知識を活用する力に課題があることが明らかになっています。平成二十四年度の調査では、前回（平成二十二年）の調査結果からは改善傾向があり、県下全ての公立小・中学校で実施している学力向上の取組の成果が現れつつあると考えています。しかし、実施した十分野（*小学校国A・B、算A・B、理、中学校国A・B、数A・B、理）の半数の五分野で、まだ全国平均以下という結果ですので、更なる改善を目指していきたいと考えています。

（*A・Bとは、A知識、B活用という問題の種類を指します。）

本事業は、次の三つの細事業によって構成されています。

- I 学力向上アドバイザー事業
- II 学力向上パイロットスクール事業
- III 学力把握調査事業

I 学力向上アドバイザー事業

(1) 概要

学力向上アドバイザー事業では、山梨県の公立小・中学校における学力に関する取組の中心的存在として、大学教授や市町村教育委員会の代表、PTAの代表、研究指定校の校長等で構成される「学力向上推進協議会」を設置しています。

この会は、学力向上対策事業全体を統括し、事業の在り方や事業内容、運営方法を検討したり、県下全公立小・中学校で行っている学力向上推進の方法や内容について提言を行ったりすることを目的としています。

また、本協議会の下に、授業改善プラン作成委員会、学力向上プログラム作成委員会等の委員会を置き、小・中学校の学力向上の推進に必要な資料の作成、配布等も行っています。

(2) 内容

○授業改善プランの作成、配信

現場の先生方が授業を改善する際の参考となるよう、学力調査の結果を踏まえた「授業改善プラン」を作成し、配信しています。

- ・全国学力・学習状況調査（国）
 - …小六、中三（国、算・数、理）
- ・教育課程実施状況調査（県）
 - …小六、中三（社、英）

・学力把握調査（県）

- …小三、小五（国、算）
- …中二（国、数、英）

※社会、英語では、児童生徒の学力を把握し、対策を立てられる「学力チェック問題」も作成し、配信しています。

○学力向上プログラムの作成、配信

これまでに学力向上に取り組んでいただいた研究指定校の研究成果を踏まえ、学力向上に効果があると考えられる取組を、「学力向上プログラム」として作成し、総合教育センターHPで公開しています。プログラムは、「学習規律の確立」や「補充学習の実施」等、全十四項目、合計六十九種類の取組で構成されています。県下の全小・中学校ではこれらを参考に、自校の実態に応じて取り組むことになっています。

○一人一実践、一校一実践の推進

県下の公立小・中学校では、各教員が授業改善の課題と目標を設定し、授業の改善を図る「一人一実践」と、学校全体で生活面も含めた学力向上の取組を実施する「一校一実践」に取り組んでいます。

平成二十四年度の取組では、平成二十三年度に課題として残された「個人差への対応」「交流や発表活動の充実」「家庭との連携」等の課題の改善も含め、全ての小・中学校で、取組を展開しており、それぞれ成果をあげています。

○家庭・地域向けの啓発活動（学力向上の集い）の企画、実施

この「学力向上の集い」は、これまでも家庭と学校の連携を目指して実施してきました。平

成二十四年度は、さらに具体的な家庭の支援を目的として、心理学の見地からスクールカウンセラー経験者、学習指導の見地から元校長、義務教育課指導主事の三名が、各家庭から寄せられた疑問や質問にお答えするという方法で実施しています。

- ・ 富士・東部地区 …… 平成24年10月30日（火）
- ・ 中北地区 …… 平成25年1月17日（木）
- ・ 峡東地区 …… 平成25年1月22日（火）
- ・ 峡南地区 …… 平成25年1月29日（火）
- ・ 甲府地区 …… 平成25年2月12日（火）

○各市町村（組合）教育委員会との連携（学力向上担当者会議の実施）

学力向上への取組を充実させるため、公立小・中学校の設置者である市町村（組合）教育委員会の担当者間で情報交換等を行っています。

II 学力向上パイロットスクール事業

(1) 概要

県内五地区において、小・中学校計十校を、研究指定校（パイロットスクール）として指定し、各地区の拠点校として位置付けました。

これらの学校では、各教科等において確かな学力を身に付けさせるための指導法や評価方法について実践的な研究を行い、その成果を「授業研究会」や「事例研究会」等を通して県下に広めることを目指しています。また、教員の授業力を高めるための授業力養成講座も開催しました。

- ・ 峡東地区 …… 山梨市立日川小学校
- …… 笛吹市立石和中学校

・ 峡南地区 …… 市川三郷町立六郷小学校

…… 身延町立中富中学校

・ 富士・東部地区 …… 大月市立鳥沢小学校

…… 富士吉田市立明見中学校

・ 中北地区 …… 中央市立三村小学校

…… 北杜市立須玉中学校

・ 甲府地区 …… 甲府市立伊勢小学校

…… 甲府市立上条中学校

(2) 内容

○授業研究会・事例研究会の開催

指定校では、学力向上を目指し、授業の改善に取り組む「授業研究会」と授業外の取組の充実を目指す「事例研究会」を実施しています。

いずれの研究会にも地域の他の小中学校の教員が参加し、地域内で共同で学力向上に取り組む仕組みになっています。

○授業力養成講座の開催

指定校を会場として、教員の授業力を高めることを目指した講座を開催しています。講師には、文部科学省の専門官やその教科等で先導的な実力のある方を招いています。



三村小での授業力養成講座

III 学力把握調査事業

(1) 概要

県内の公立小・中学校の児童生徒が学習指導要領に示されている目標や内容をどの程度身に付けているか、より早い段階から学習のつまづきを把握して、指導の改善に生かすことを目指しています。平成二十五年度も実施を予定しています。

(2) 実施状況

- ・ 期日 …… 平成二十四年五月
- ・ 学年、教科 …… 小三、小五（国、算）
- …… 中二（国、数、英）

(3) 結果の集計、分析、活用

県教育委員会では、県下小・中学校の児童生徒から一割（各学年九〇〇名程度）を抽出した後、採点、集計、分析して、県全体としての課題を把握しました。

集計の結果と把握した課題については、各学校が自校の児童生徒の学力の状況を分析し、改善策を検討するときに役立つよう、改善を図るための取組例（授業改善プラン）を作成し、総合教育センターHPで公開しています。

また、調査に参加した学校で、調査結果を踏まえ効果的な指導ができるよう、調査結果を集計し、結果を印刷できるソフトも配信しました。各小・中学校が、自校の状況に応じて事業を活用することで、学力向上に対する「計画―実施―点検―改善」という仕組みを確立することを目指しています。

県教育委員会では、これらの事業によって個々の児童生徒の可能性を伸ばすとともに、県全体の学力向上を図り、地域を支え、世界に通じる人を育てることを目指しています。

「地域連携ものづくり人材育成事業」

高校教育課

事業実施の背景

- 1 団塊世代の熟練技術者の大量退職
- 2 若者のものづくり離れ
- 3 技術・技能の継承や若手技術者の育成
- 4 「社会人基礎力（経産省）」（アクション、シンキング、チームワーク）の育成
- 5 工業系高校生に求められる「確かな技術力」として技能検定等の資格取得を推進
- 6 新学習指導要領の改善の基本方針

事業の経緯

- 「ものづくり人材育成のための専門高校・地域産業連携事業」（文科省指定事業「クラフトマン二十一」）の実施
- 1 目的：地域産業界と県内工業高校が連携したものづくり人材の育成と人材プログラムの確立
 - 2 実施高校：工業高校三校の機械系を中心（韭崎工、甲府工、谷村工）
 - 3 実施期間：H十九～二十一年度
 - 4 成果：産学官のコンソーシアムの確立。技能検定の合格者増加。地元企業からの高い評価。

本事業への移行

- 県単独事業として実施
- 1 目的：確かな技術力を持ったものづくり人材の育成
 - 2 対象：県立工業系高校六校（韭工、甲工、城西、峡南、谷工、北稜）の全学科
 - 3 実施期間：H二十二～二十四年度（三年間）
 - 4 予算：H二十二（七八〇万）、H二十三（四三〇万）、H二十四（四三〇万）

事業内容

- 1 企業現場実習

期間：三～五日、時期：長期休業中等

- 協力企業：約一三〇社
- 2 技術者による実践的授業
- 内容：高度な技術指導や技能検定等資格取得の指導、協力企業等：約四〇社

関係機関との連携

- 1 富士工業技術センター
- ①「シーケンス制御の基礎」 ②「化学分析機器講習」 ③「金属の組織観察」 ④「精密測定」
- 2 産業技術短期大学校
- ①施設・設備の利用 ②工業系高校への出前授業 ③教員の実技研修会
- 3 山梨県鉄構溶接協会
- ①高校生溶接技術競技会の開催 ②技能講習の実施

共同研究

- 1 岩間農機・梨大と甲府工業：農業用トラクター（遠隔操作）
- 2 ホリメカニックと谷村工業高校：ソーラーラジコンカーのボディ加工

教員企業等研修

- 1 技能検定「機械検査」の研修（THK株式会社）
- 2 産業用ロボット操作実習（フアナック株式会社）
- 3 技能検定「シーケンス制御」の研修（職業能力開発促進センター）
- 4 技能検定「大工二・二級」の研修（山梨県建設組合連合会）
- 5 技能検定「機械加工旋盤」の研修（産業技術短期大学校）

平成二十三年度 学校関係者アンケート結果

- ① 生徒：学ぶ目的が明確となり、意欲が向上した↓九〇%
- ② 教員：研修により技術、技能が向上した↓一〇〇%
- ③ 保護者：企業実習の取組は意義がある↓八〇%

- ④ 技術・技能が身に付いた↓六三%
- ⑤ コミュニケーション能力や協調性が向上↓六九%
- ⑥ 礼儀作法（挨拶・言葉遣い・モラル・ルール）が向上した↓八一%
- ⑦ 次回、生徒の企業実習受入に協力できる↓一〇〇%

今後の課題

- ① 確かな技術力の定着
- ② 技能検定等の資格取得者を増加
- ③ 協力企業数の増加
- ④ 関係機関・団体・協会との連携推進
- ⑤ 教員の技術・技能の向上
- ⑥ 企業見学の拡大
- ⑦ 企業実習の学習評価の検討
- ⑧ 社会人基礎力（経産省）の育成
- ⑨ デュアルシステムの導入

* 企業が求める人材育成を教育活動全体で行う。



「科学の甲子園」全国大会及び山梨大会

～広げよう科学の輪 活かそう科学の英知～

— 高校教育課 —

「科学の甲子園」は、高等学校の生徒が、チー

ムで理科・数学・情報分野の課題にチャレンジする競技です。全国の科学好きの生徒が集い、競い合い、活躍できる場として昨年度より始まったものです。昨年度開催された第一回全国大会には各都道府県の代表四十九校が出場しました。山梨県からは北杜市立甲陵高校が出場し、総合第五位に入りました。

山梨県では昨年度に続き、今年度の全国大会出場チームを選抜するために「第二回科学の甲子園山梨大会」を開催しました。

事業の背景、目的

グローバル社会において、主体的かつ創造的に問題を解決するスキルを持つ人材の育成が、企業などをはじめとして社会の要請になりつつある中、国際学力調査などを通じた日本の生徒の「理科離れ」や、科学好きの生徒が切磋琢磨し評価される場の不足も指摘されています。このような状況から、政府方針「新成長戦略工程表」（平成二十二年六月閣議決定）に、理数教育の強化と理系進学の促進に向けた取り組みの一貫として、「科学の甲子園」の創設が明記され、独立行政法人科学技術振興機構（以下、JST）は、平成二十三年度より、全国の高校生が学校対抗で科学の知識・技能を競う「科学の甲子園全国大会」を創設しました。

事業概要

「科学の甲子園」では、高等学校の生徒チームを対象として、理科・数学・情報における複数分野の競技を行います。JSTが主催する全国大会には各都道府県で選抜された代表校の生徒チームが参加し、筆記問題、実験・観察、工作競技に挑戦して、その総合点を競います。

科学の甲子園全国大会

（日程）平成二十五年三月二十三日～二十五日
（内容）二十三日 開会式、筆記、実技
二十四日 実技、表彰式、交流会
二十五日 エクスカーション

（場所）兵庫県立総合体育館

科学の甲子園山梨大会

科学の甲子園全国大会の予選として位置づけ、高校一、二年生の六人を一チームとして理科や数学、情報に関する複数分野の競技を行います。第一ステージでは、生徒が筆記競技と総合競技（工作）を行い、上位四チームが第二ステージに進み、実験や観察等の実技を行います。第一ステージ、第二ステージの総合得点で県代表チームを決定します。

今年度の大会結果は以下のとおりです。

第一ステージ 平成二十四年十一月十一日

（内容）筆記競技・総合競技（工作）
（場所）山梨県立甲府東高等学校
（参加）十二校三十チーム

第二ステージ 平成二十四年十二月二十三日

（内容）実験競技及びその発表
（場所）山梨県総合教育センター
（結果）一位：駿台甲府A 二位：甲府南A
三位：駿台甲府B 四位：吉田B



第1ステージ筆記競技



第2ステージ実験競技

今年度の山梨大会には、十二校三十チーム、百八十名の生徒が参加し、盛大に開催することができました。第二回全国大会の出場切符は駿台甲府高校Aチームが獲得しました。

科学の甲子園山梨大会では、今後も、単に全国大会出場チームを選抜することだけを目的とするのではなく、参加した生徒にとって有意義な大会、科学好きの裾野を広げられるような大会にしたいと思えます。

平成26年度インターハイ・^{きら}煌めく青春 南関東総体2014

～高校生活動が始動！～

— 全国高校総体推進室 —



1 県生徒実践委員会設立・第1回総会

平成26年度全国高等学校総合体育大会（インターハイ）の開催に向けて高校生活を積極的に推進するため、平成24年10月26日に小瀬スポーツ公園武道館第一会議室において、県生徒実践委員会を設立し、第1回総会を開催しました。この委員会は、県内の公立高校、私立高校及び特別支援学校51校の代表生徒で構成されています。



総会では、執行委員8名を選出し、その中から委員長・副委員長の選出が行われました。



左から
副委員長 長井 碧さん（甲府南高等学校）
委員長 若林克弥さん（白根高等学校）
副委員長 小林佑紀さん（吉田高等学校）

若林克弥委員長の就任あいさつでは、「僕たち高校生が中心となり、全国の人たちに山梨の魅力を伝えていきたい。」と力強い決意表明がありました。

2 634日前カウントダウンイベント

平成24年11月4日に東京スカイツリーにおいて、南関東ブロック四都県の共催で「634日前カウントダウンイベント」を開催しました。本県からは県生徒実践委員会委員長・副委員長の3名が参加しました。

イベントでは各都県生徒実践委員会の紹介、高校生によるアトラクション、ロンドンオリンピック・レスリング金メダリストの米満選手のトークショーなどを行い、大盛況でした。

また、来場者に「のぼり旗」への応援メッセージの記入を呼び掛け、協力してくれた方には高校生が作ったお菓子をプレゼントしました。



3 第1回執行委員会

平成24年12月13日に新県立図書館交流ルームにおいて県生徒実践委員会第1回執行委員会を開催し、平成24年度活動計画等について話し合いを行いました。この結果、まずは身近なところからインターハイをPRすることとし、学校新聞を作成するなどの活動を行っていくことに決めました。

今後は、各学校や地域において、様々な機会を通じて広報活動等を積極的に推進していきます。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

大会公式ホームページ <http://www.2014soutai.jp/>

2014 総体

検索

平成24年度 新体力テスト・健康実態調査 結果の概要

— スポーツ健康課 —

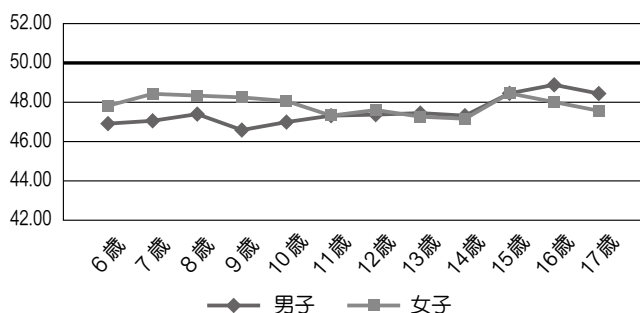
*県教育委員会では、「たくましいからだをはぐくむ健康・体力づくり実践事業」の一環として、平成17年度より、県内全公立小・中・高等学校児童生徒を対象に「新体力テスト・健康実態調査」を実施しています。児童生徒の総合的な健康・体力の向上と、体育・スポーツ活動の指導上の基礎資料として活用することを目的としています。調査結果の分析・考察につきましては、山梨大学教育人間科学部（保健体育講座・生涯学習講座スポーツ健康科学コース）に委託しております。

1 調査の概要

- (1) 調査内容 ・新体力テスト（8種目）
・健康実態調査（10項目）
- (2) 実施時期 平成24年4月～7月
- (3) 実施率 100%
※県内公立小(184校)・中(87校)・高(全日33校、定時8校)全て実施
- (4) 実施人数 88,657人

2 調査結果の概要

- (1) 体力・運動能力の実態
- 体力合計点の平均値は、男女ともに連続した改善傾向がみられます。
体力合計点のTスコア(全国平均値を50とした場合)は、男女ともに全国平均を下回り、女子については、加齢とともに低下の傾向がみられます。
- 共通3種目(握力・50m走・ボール投げ)の継続的データは、昭和50年代をピークに低下傾向がみられましたが、本調査を開始した平成17年頃からほぼ横ばい傾向を示しています。本県児童生徒の体力低下にある程度の歯止めがかかったといえます。しかし、技術や身体操作性が求められる運動能力についての伸びは鈍いといえます。



(2) 健康実態調査における生活習慣と体力の傾向

- 平成17年度からの推移を見ますと、全体的に8年間において改善傾向がみられます。中学校・高等学校の改善率は、高いのですが、小学校低学年においては生活習慣の停滞傾向がみられます。
- 運動習慣については、男女ともに中学校期を境に運動をしない傾向が高まり、特に女子の運動をしない傾向は男子より早く訪れ、その割合も大きいといえます。男女ともに運動の実施頻度と体力合計点の間には比例関係がみられます。
- 朝食摂取については、男女ともに13歳以降「毎日食べる」割合が減少傾向にあるが、高い割合を保っています。朝食を摂取している児童生徒の体力合計点は高い傾向にあります。
- 睡眠時間については、男女ともに加齢に伴い減少します。小学校期では6時間未満の児童の体力合計点は低い傾向がみられましたが、高等学校期になるとむしろ8時間以上の生徒の体力合計点が低い傾向を示しています。

3 今後の課題

調査開始から8年間で全体的に改善傾向がみられます。しかし、基礎的な体力要素と比べ、技術や身体操作性を伴った運動能力に依然課題があります。各学校においては、体育・保健体育の授業の中で発達の段階に応じた様々な運動の実践ができるような教材研究を行い、一層の充実を図ることが重要です。「健康・体力づくり一校一実践運動」による運動機会の確保や動きづくりのプログラムの工夫など、積極的な働きかけが望まれます。

また、小学校低学年からの生活習慣の改善を通して体力向上につなげるとともに、健康的な生活習慣の確立による継続的な取組が必要です。心身の健康や食育の面も併せて、家庭との連携を図ることがより一層求られます。





活かそう！ 山梨の文化力

— 学術文化財課 —

1月12日から全国で初めての通年開催となる「富士の国やまなし国民文化祭」がスタートし、6月には富士山の世界文化遺産登録の実現が期待されるなど、平成25年は山梨の文化に関心が集まる年です。学校教育の場で活用できる山梨の文化財に関する最新情報をご紹介します。

① 富士山世界文化遺産登録について

本年6月の登録に向け、県内外の期待が高まっています。地元の小中学生を中心に、富士山をテーマにした特色のある学習活動が展開されています。

これまでの過程

- 平成19年9月 日本の世界遺産候補を示す世界遺産暫定リストに登載
- 平成24年1月 日本政府が推薦書をユネスコに提出
- 平成24年2月 「富士山の日」制定、「富士山世界文化遺産両県県民会議」発足
- 平成24年8～9月 イコモス（国際記念物遺跡会議）による現地調査等

今後の予定

- ・平成25年5月頃
イコモスが推薦書・現地調査の結果を踏まえ、評価結果を世界遺産委員会に勧告
※ 評価結果は①登録、②情報照会、③登録延期、④不登録のいずれか
- ・平成25年6月17日～27日
第37回世界遺産委員会で登録の可否を審議



富士山に関連する特別展等（予定）

- 県立博物館：北斎の富嶽三十六景（H25.6.15～7.8）
- 考古博物館：日本一の山 富士山展（H25.7.13～9.1）
- 文学館：富士山と文学（H25.4.27～7.7）



富嶽三十六景凱風快晴
山梨県立博物館蔵

② 約140年ぶりに復元 甲府城跡 鉄門(くろがねもん)

明治時代の初めまで存在していた、甲府城跡鉄門の復元が完成し、1月10日（木）から公開となりました。

史実に基づいて復元された門は、現存する礎石の上に建てられ、門の2階が武器庫（矢倉）となる「櫓門」形式となっています。現在は、2階部分を資料等を展示するスペースとして公開しています。【開館時間：9時～16時30分（月曜休み）】



③ Web版『山梨の文化財ガイド』

[写真上] 完成した鉄門（南側から）
[写真下] 竣工式典のようす

県内に所在する国及び県指定等の文化財約730件の概要を紹介する『山梨の文化財ガイド』を山梨県の公式ホームページで公開しています。

web版『山梨の文化財ガイド』は、文化財のジャンルごとに写真や概要説明を載せ、県下の文化財の情報が利用できるようになっています。

今後もより使い易いものとなるよう随時更新していく予定ですが、今般、市町村別の文化財の索引ページが追加され、「学校の周辺の文化財は？」などのテーマに一段と対応しやすくなりました。

http://www.pref.yamanashi.jp/gakujutu/bunkazaihogo/bunkazai_guide0001.html

また、昨年11月より、山梨県で発行された遺跡発掘調査報告書をホームページで公開しています。

『山梨県遺跡資料リポジトリ』 <http://rar.yamanashi.nii.ac.jp/>



望月春江とその時代

— 県立美術館 —

望月春江（1893～1979）は、現在の甲府市増坪町に生まれました。日本画家の結城素明に師事して東京美術学校（現、東京藝術大学）日本画科を首席で卒業後、1921（大正10）年の第3回帝展において《春に生きんとす》が初入選を果たします。



望月春江《春に生きんとす》1921年

その後、第9回展の《趁春》、10回展の《明るきかぐのこの実》が連続して特選となり、一躍、その名が世に知られるようになりました。以来、帝展、新文展を中心に活躍しました。また、日本画院の設立に尽力し、郷里の山梨美術協会創立会員になるなど、活動の場を広げていきました。一方で、東京女子高等師範学校（現、お茶の水女子大学）や東京純心女子短期大学などで教鞭を執り後進を育てました。



望月春江《明るきかぐのこの実》1929年

1958（昭和33）年には日展出品《蓮》により日本芸術院賞を受賞し、1975（昭和50）年には山梨県特別文化功労者として表彰されるなど、本県を代表する近代日本画家として位置づけられています。



望月春江《惜春》1978年

本展は、当館が開館して間もない1979（昭和54）年に開催した「望月春江展」から30年以上を経て、新たに発見された作品を加えて春江の画業を改めて顕彰するものです。

また、日本画院の飛田周山、野田九浦、川崎小虎、吉村忠夫ら、山梨美術協会の近藤浩一路、穴山勝堂、名取春仙ら、春江とともに創設時に活躍した画家たちの作品も紹介します。そうすることで時代の潮流を概観し、春江の近代日本画壇における位置づけを試みます。

なお会期中、5月16日（木）午後4時から「教師のための鑑賞研究会」を開催します。

会期：4月27日（土）～6月9日（日）

料金：一般 1,000 円 大高生 500 円

中小生 260 円

博学連携の取り組み

～ 博物館の挑戦 ～

— 県立博物館 —

みなさんこんにちは！で始まる博物館通信（e-かいじあむ）は、平成二十四年五月から県内の小中学校に定期的に配信しています。今までにない博物館からの通信に、現場の先生方はびっくりされているようです。この博物館通信など、学校と博物館との垣根を少しでも低くするために様々な取り組みをしています。

○「e-かいじあむ」発信

発行にあたり、まず「表題」と「表現方法」に頭を悩ませました。

表題については「e-かいじあむ」となりました。これはE||E D U C A T I O NとE||E m a i l それに博物館の愛称である「かいじあむ」を結びつけたものです。

表現方法については、現場の先生や児童生徒にどうしたら読んでもらえるのか、とても悩みました。学校現場では、学級通信を一週間に一回書いていました。自分が書いていると思うと文章が出てこないの、「魚」に代弁させました。この通信は、生徒や保護者に好評で、書いていて楽しいものになりました。この経験を生かして、できるだけ堅苦しくなく読みやすいものにしたという発想で書いています。

内容については、博物館のことをできるだけ知ってもらいたいため、博物館で行われているイベントの様子を写

真入りで、やさしく書きました。また、博物館にはどのような人が勤務しているのか客観的に紹介しました。時には博物館の備品を使つての出前授業の様子など、多くの先生や児童生徒の目に触れるように書いています。

○出前授業

今年度、博物館では出前授業に力を入れてきました。「昔の道具体験」「鎌倉修学旅行」「武田信玄」など、主に小学校向けに出前授業を行っています。その結果、前年度の四倍の実績を上げることができました。申込みは、博物館ホームページをご覧になり、連絡を頂ければ教育主事が日程の調整を行います。この出前授業は、

講師料・出張旅費など一切かかりません。是非学校で博物館の出前授業を試してみませんか。

○博学連携ワークショップについて

今年度から、博物館では夏の研修に博学連携ワークショップを入れていきます。ワークショップとは、研修するものが「教えたり教えられたりする」機会の提供です。この研究形態は、国立歴史民俗博物館で実施しているものです。

夏の研修会には十七名の先生方が参加し、各校種毎にどんな授業ができるのか考えました。三人寄れば文殊の言葉どおり、複数集まれば知恵はわくものです。特に小学校の先生方の動きはめざましく、積極的に博物館の中を見学し、知恵を出し合い、授業案に仕上げました。初めての試みでしたが、今後に期待ができる取り組みでした。来年度は学芸員を含めて、より専門性も深めて取り組んでいきたいと思えます。みなさんも博物館研修に参加して、博物館とともに授業を考えてみませんか。きつと何かつかめることがあるはず。敷居が高いと思われがちな博物館に、乗り込んでみませんか。それをお助けするのが、博物館の教育主事の役目なのです。

○お問い合わせ

山梨県立博物館企画交流課

電話 ○五五―二六一―二二七八

FAX ○五五―二六一―二六三二

山梨県立博物館通信 問い合わせ電話055-262-1278


2013年2月7日 企画交流課 古原和彦 No.66

e-かいじあむ


博物館で昔の道具体験!

みなさんこんにちは！6日は大雪になると気象庁は予測していたのに、朝から雨。予報ははずれてラッキーと思いませんか？降っていたら「大は喜び庭駆け回り、主事はこたつで丸くなる」だったのにと思っているのは私だけでしょうか。雪が降ると博物館は大変なですよ。なんとって博物館に降った雪をかくのは、博物館職員。みんないい汗流すのです。(いや～敷地広すぎ～)


さて、博物館に玉環小学校の生徒が来館しました。実は2回目の来館。博物館にとってはとてもありがたいです。最初に出前授業を受けるクラスと博物館内のジオラマを探索クラスに分かれました。小学生の表情はとてもいいですね。目が輝いています。でも「おじちゃん」と言われてしまいました。ショック！



わらじを履いています。このあと外を走りました。わらじイタ～いの声・・・



天秤棒をかついでいます。昔の道具はどうですかね。



またまたお知らせ
ティーチャーズクラブが
2月18日(月)にあります。
まだまだ参加受付中
一緒に盛りませんか。

★出前授業のご案内
小学5年生は、来年度の修学旅行に向けて、取り組みを始めた学校もあるかと思えます。そこでお勧めなのが、「修学旅行事前学習・鎌倉」の出前授業です。1単位時間45分で、源平の合戦、鎌倉幕府の立地条件、八幡宮・大仏の説明、その他の見どころを説明します。出前授業の実施時期は3月に設定させていただきますが、予約等のお問い合わせは、できるだけ早めにお願います。(年度が変わって、6年生になってからでも、当然、受け付けております。)

ミュージアム甲斐・ネットワーク

～県内博物館等の連携による活動の活性化と利用者サービス向上を目指して～

— 学術文化財課 —

県内の美術館、博物館等が、相互に連携して活性化を図り、活動の充実や利用者へのサービスの向上を目指す「ミュージアム甲斐・ネットワーク」会員施設の紹介をします。

清春白樺美術館（北杜市）

清春白樺美術館は開館30周年として3月30日より「梅原という男」展（梅原龍三郎展）を予定しております。藤森照信建築による茶室「徹」をはじめ、安藤忠雄氏設計の「光の美術館」、エッフェル塔の設計で有名なエッフェルが設計した集合アトリエ「ラ・リュージュ」等、魅力溢れる建築物も多くあります。またレストラン「ラ・パレット」ではワークショップ等のイベントも企画しております。

清春小学校跡地という広い敷地で桜や作品に囲まれてゆったりとアートな1日をお過ごし下さい。

住所：北杜市長坂町中丸2072

電話番号：0551-32-4865

担当者：荒川・吉成

休館日：月曜（祝日の場合は翌日）、展示替えの為の休館、年末年始

入館料：小中高生無料、一般1,500円
（詳しくはお問い合わせください）

駐車場：無料（普通車30台、バス2台）

URL：http://www.kiyoharu-art.com/



清春白樺美術館



光の美術館



ラ・リュージュと桜

近藤浩一路記念南部町立美術館（南部町）

近藤浩一路記念南部町立美術館は、1997年南部町出身の水墨画家近藤浩一路の業績を称揚するとともに、貴重な資料の痕跡を継承、地域の文化的風土の醸成を目的として設立されました。所蔵点数は、絵画・遺品約200展余りを収蔵しています。

近藤浩一路は、1910年東京美術学校洋画科（現・東京芸術大学）を卒業し、その後日本画に転じ水墨画の世界に独自の様式を確立しました。墨に五彩ありとは水墨画の本場中国の言葉、浩一路は文字通り墨一色で五彩も及ばぬ墨の妙技をみせてくれた水墨画の巨匠と言えます

水墨画に光と陰の明暗を取り入れ独自の画風を切り開き

多彩な表現を試みた名品の数々。近藤浩一路記念南部町立美術館を皆様にご案内致します。

住所：山梨県南巨摩郡南部町大和360番地

電話：0556-62-9292

担当者：若林

休館日：月曜（祝日の場合は翌日）、館内整理日、年末年始

入館料：大人¥300 子ども¥200

（団体20名以上 大人¥240 子ども¥160）

駐車場：無料（普通45台、バス5台）

アクセス：JR身延線：内船駅下車 徒歩20分



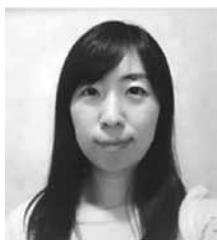
アルカディア文化館
（近藤浩一路記念南部町立美術館）



第3展示室
額装 掛軸の展示



浩一路の遺品（アトリエイメージ）
ガラスケース内には文献資料の展示



らくがき

楽しい学校って？

一之宮 紗映

「学校が楽しい！」

私が、生徒から聞いて嬉しくなる言葉のひとつです。

自分の学生時代を振り返ってみると、朝起きるのは辛かったのですが、学校へ行くのはとても楽しかったです。教員になった今も、大変なこともあります、学校が楽しいという思いは、昔と変わりません。

どうして私は学校が楽しいのだろう……。自分なりに楽しいと思う瞬間を改めて考えてみました。

休み時間や給食の時間に生徒と話している時、職員室で仕事の合間に先生方と他愛もない話をしている時。また、振り返ってみると、学生時代に友達と過ごした時間は、今でも楽しい瞬間の温かな思い出です。

今も昔も、友達、先生、生徒とふれあっている時が「学校って楽しいなあ」と思う瞬間です。

社会の中で生きていくためには、周りの人との関係づくりがとても大切です。生徒たちが大人になり社会へ出る前に、人とのふれあいの大切さや、支え合う楽しさを感じられるような学級づくりをしていきたいです。

「生徒みんなが楽しいと思える学級」を目標に、今日も1日頑張ります。

(笛吹市立春日居中学校)



夢に向かって

小林 裕直

先日、祖父が他界した。私は祖父が大好きだった。

小さい頃の私は生活の半分が祖父の家であった。学校から帰ると、いつも祖母がおやつを出してくれる。そうすると、必ず祖父が「ひろ、おじいちゃんにも1つくれ」と言ってくる。祖父は甘い物が大好きだった。そんな祖父だが、歴史や詩吟が好きで、毎日本を読んで勉強していた。特技の多かった祖父は、家ではおおらかで優しいおじいちゃんであったが、外では多くの人から尊敬されていたようだ。

私はよく祖父に似ていると言われた。今思えば、それがすごく嬉しかった。祖父はいつも笑顔で優しくかったから。そんな祖父に私はいつか自慢したいことがあった。それは、幼い頃から習っている少林寺拳法で日本一になることだった。「おじいちゃんの孫が日本一になったよ。」そう自慢したかった。しかし、それは叶わなかった。悔しい気持ちでいっぱい。でも、私が今まで少林寺拳法を続けてくることができたのは、祖父の好きなことに一生懸命なところが似たからだと思う。教員になったことも、祖父の血を受け継いでいるからだと思う。

「天国のおじいちゃん、これからも俺は自分らしく夢に向かって頑張ります。そして、おじいちゃんからももらった優しさは、これから出会う子どもたちに返していきます。だから、天国から楽しみに見守っててください。」

(丹波山村立丹波小学校)

まいぶんイベント情報

— 埋蔵文化財センター —

当センターでは、埋蔵文化財に対する理解と郷土への歴史的認識を深めてもらう場として、例年3月から4月にかけて各種のイベントを計画しております。

1 知ろう山梨の歴史！「山梨の遺跡展2013」

平成24年度中に実施した県内各地での発掘調査などの成果を出土遺物や写真パネルの展示により一般の方々へ公開いたします。

会 期：平成25年3月9日(土)～4月7日(日)
(休館日：3/11、3/18、3/21、3/25、4/1)

出展遺跡：県指定史跡甲府城跡、上コブケ遺跡、日下部遺跡ほか

会 場：山梨県立考古博物館 多目的室

入 場 料：無料 ※ 駐車場あり

2 2012(平成24)年度下半年遺跡調査発表会

平成25年度中に県内で発掘調査された遺跡の中から、特に注目を集めた遺跡について、各調査担当者から映写をまじえながら、わかりやすく説明していただきます。

日 時：平成25年3月16日(土) 13:00～16:10

発表遺跡：堰口遺跡・川田瓦窯跡・北田遺跡、膳棚遺跡(D区)、山影遺跡、大野堤防遺跡

会 場：帝京大学文化財研究所 大ホール

入 場 料：無料 ※ 駐車場あり

3 第42回信玄公祭り 甲州寺子屋「武田氏館と城下町～その魅力とは～」

甲府駅北口に広がる中世武田城下町の痕跡を、最新の発

掘調査事例を交えながらその魅力に迫ります。

講 師：信藤祐仁(甲府市教育委員会)

日 時：平成25年4月7日(日)

会 場：恩賜林記念館

入 場 料：無料

4 平成25年度埋蔵文化財シンポジウム「自然災害と考古学～過去からの警告～」

東日本大震災から2年あまりが経とうとしているいま、遺跡の発掘調査で発見される様々な災害の痕跡をもとに、日本人がどのように災害に向き合ってきたかを紐解きながら、考古学や歴史の視点から防災・減災について考えます。

日 時：平成25年3月23日(土) 13:00～17:00

会 場：山梨県立男女共同参画推進センター

基調講演：「遺跡が語る地震の歴史」

寒川旭(独立行政法人産業技術総合研究所)

「未来を語る地震考古学～災害を掘る～」

高橋学(立命館大学教授)

シンポジスト：寒川旭、高橋学、篠原武、杉本悠樹、斎藤秀樹、保坂和博

入 場 料：無料

定 員：150名

◆お問い合わせ先 県埋蔵文化財センター

電話：055-266-3016 FAX：055-266-3882

H P：http://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/

小中連携教育の推進 ～ 甲府の子ども教育総合推進校としての取組 ～

甲府市立東中学校

本校は、甲府市街地東部から笛吹市との境の果樹園地帯を学区とする生徒数569人の中学校です。元気で明るく活気に満ちており、『夢きよく道はるか』を校訓に日々教育活動に励んでいます。

本校では、平成22年度より3年間、甲府市教育委員会「小中連携教育推進事業」の指定を受け、小中連携による学力向上・生徒指導上の問題解決、「思い遣り心」の育成、「中1ギャップ」の解消を目指し、次のような取組を展開してきました。

◇「学びでつなぐ」小中連携

・本校教員による出前授業(写真)

学区の4小学校の6学年を対象に本校教員が小学校に出向き、中学校につながる内容について授業を提供しました。

・小中合同研修会

学区の小中学校教員が一堂に会し、学力・生徒指導・交流について意見交換を行いました。

・学校間の授業参観、校内研究会参加

◇「ふれあいであつなぐ」小中連携

・東中オープンスクール(写真)

土曜日を利用し、学区小学校の6学年児童とその保護者及び地域の方々を対象に、授業参観、部活動見学及び、スライ

ドによる学校紹介を行いました。(6月30日実施)

・本校生徒の小中学校訪問(写真)

本校1学年生徒代表が、卒業した小学校を訪問し、作文やスライド等により東中学校の紹介を行いました。

・学園祭による作品交流

展示部門に小学校の作品展示コーナーを設け、参観してもらいました。

◇ 東中学校区内重点指導事項の継続指導

・「あいさつ・聴き方・思い遣り」を学区小中学校の指導の合言葉として、各学校・学級に掲示し、様々な場面を活用し、継続した指導を行っています。

これらの取組を通して、児童や保護者の中学校に対する理解が深まり、新入生が、上級生とよりよい関わりをもちながら、スムーズに中学校生活に溶け込んでいく様子がかがえ、小中連携教育の成果を実感しています。また、小中の交流を通して、小中学校教員相互の各校種への理解の深まりも大きな成果といえます。今後も改善を重ね、よりよい小中連携教育を推進していきたいと思ひます。



本校教員による出前授業



オープンスクールでの部活動紹介



小学校訪問にて東中をPRする1年生

肢体不自由教育の専門性を発揮する学校に！

県立甲府支援学校

本校は、昭和38年に県内で初めての肢体不自由児を対象とした養護学校として創設され、平成25年度には創立50周年を迎えます。本校からあけぼの支援学校、富士見支援学校、ふじざくら支援学校が独立していきました。

平成10年度以降、児童生徒の障害の重度・重複化が著しく進み、様々な支援が必要になりました。平成11年度からは口腔保健センターの専門医による摂食指導支援が開始され、摂食障害のある児童生徒が安全に給食を食べられるようになりました。また、平成14年度からは県内の学校で初めて看護師を配置し、医療的ケアを必要とする児童生徒が安心して学校生活を送れるようになりました。この15年間の本

校は、重度・重複化への対応の歴史を刻んできたと言えます。一方、単一障害の児童生徒も在籍しており、教科学習をしています。このように、本校は、児童生徒の幅広い実態に応じ、力を最大限に伸ばすきめ細かな教育を目指しています。そのため、教師の専門性の向上を図り、校内研修に力を入れています。視機能支援、摂食指導、医療的ケア、吸引実技、救急救命、AAC、進路、自立活動、教材研究など様々な内容で年間計画を立案し、必要に応じて外部講師も招へいしています。教師が専門性を発揮することが教育の質の向上につながります。本校はさらに専門性の向上に取り組み、児童生徒の輝く笑顔あふれる学校を目指します。



給食の様子(高等部)



自立活動の様子(立位の学習・小学部)

「教育の情報化」への取組について

総合教育センター 情報教育部

総合教育センター（以下、センター）ではICTを効果的に活用した「分かる授業」の実現と子どもたちの情報活用能力の育成を図るため、次の3点を重点的に取り組んでいます。

1 教職員のICT活用能力及びICT活用指導力向上のための研修会の充実

2 今日的課題である教育の情報化についての研究

3 教育用デジタルコンテンツを開発・収集及び発信

同時に、ネットワーク、グループウェア、校務処理システム等の運用・管理の支援や相談業務を行い県内の教育の情報化を支援しています。

具体的には、今年度、情報教育に関する研修会を25講座開講し、延べ595人が受講しました。各学校での研修要請に対しては出前研修として講師を派遣し、教職員のICT活用指導力の向上を目指しています。

また、昨年度のセンターのホームページのリニューアルとともに、教育情報コンテンツデータベースを再構築しました。センターの持つ情報資産は、データベースに登録されているもので、およそ65,000件あります。その内訳はそれぞれ概数ですが、教材・指導案が4,5

00件、教育関係図書が13,200件、教育研究文献・紀要が45,900件、教育用ソフトウェアが740件、教育用ビデオソフトが350件です。教材・指導案等及びセンター研修主事による調査・研究の成果はデジタル化しセンターのホームページからいつでも参照できます。図書・文献及びソフトウェア類は、ホームページから一次情報を検索し、ライブラリーで閲覧・体験できます。なおプラムメールアドレスを取得した先生方は図書を借りることもできます。

更に県内の教職員であればいつでもどこでもメールが読み書きできる「プラムメール」、文書交換システムである「ビーチウェア」など、教職員の皆様に有用なサービスを提供しています。

このような情報資産の積極的な活用を促すためには、センターから教職員に対し新鮮な情報を積極的に発信する必要があります。そのため、センターのホームページは常に更新され、月平均で14,335件のアクセスを数えます。

また、昨年1月からメールマガジンを発行し、登録された先生方へ次の内容をメルマガとして配信しています。

・センターや県教育委員会からの最新情報

・県内外の教育に関する催しの情報
・新着図書・資料の案内

更に学校現場で役立つ工夫などをシリーズで連載しています。登録すると過去のメルマガも閲覧できます。是非この機会にメルマガへの登録をお願いします。

これからもセンターホームページを使いやすく、充実したものにしていきたいと考えています。ホームページに関するご要望やご意見等はセンター情報教育部へご連絡ください。

山梨県総合教育センターホームページ

URL: <http://www.ypec.ed.jp/>



～ 東部地域新設高校の校名募集について ～

新しい学校づくり推進室

平成26年4月、現在の谷村工業高等学校の地に、谷村工業高等学校と桂高等学校を再編して、普通科・専門教育学科・工業科からなる高等学校が開校します。

地域や県民の皆様に親しまれる学校とするために、広く校名を募集します。

新しい高等学校にふさわしい校名をお寄せください。今回は、校名に関するアイデアを募集するものです。(応募数の多い校名が選ばれるとは限りません。)

◆募集期間

平成25年2月6日(水)～3月22日(金)【必着】

◆応募方法

新しい学校づくり推進室までメールまたは官製ハガキで応募してください。

E-mail:gakkosui@pref.yamanashi.lg.jp

◆記載事項

「高等学校の名称、ふりがな、その理由」
「住所・氏名・電話番号」

◆送り先

〒400-8504

甲府市丸の内1-6-1

山梨県教育庁新しい学校づくり推進室 校名募集係

◆問い合わせ先

山梨県教育庁新しい学校づくり推進室

電話 055-223-1767

FAX 055-223-1768

※応募者の個人情報は適切に管理し、この事業以外の目的で使用しません。

交流エリアの各部屋は様々な用途でご利用いただけます

県立図書館

県立図書館の交流エリアには、展覧会やイベントが開催できるイベントスペースや、上映会や講演会などに利用できる多目的ホールのほか、グループ学習やサークル活動などに利用できる交流ルームがあります。

研修会や展示会、発表会など、様々な活動にぜひご活用ください。

※ お問い合わせ：山梨県立図書館

施設予約専用

電話TEL：055-255-1041

	面積 (㎡)	収容人数 (人) 椅子のみ/机あり	利用料金 1時間単位
交流ルーム101	61	54 / 36	260 円
交流ルーム102	54	54 / 36	230 円
交流ルーム103 (遮音壁)	20	18 / 12	100 円
交流ルーム104 (遮音壁)	44	45 / 30	190 円
交流ルーム201	23	22 / 15	100 円
交流ルーム202	27	27 / 28	110 円

	面積 (㎡)	収容人数 (人) 椅子のみ/机あり	利用料金			
			9:00～12:00	13:00～17:00	18:00～21:00	9:00～21:00
イベントスペース(全面)	476	497 / 324	6,270 円	8,360 円	6,270 円	20,900 円
イベントスペース(東面)	201	177 / 120	2,640 円	3,520 円	2,640 円	8,800 円
イベントスペース(西面)	210	177 / 120	2,760 円	3,680 円	2,760 円	9,200 円
多目的ホール	168	200 / -	2,190 円	2,920 円	2,190 円	7,300 円



多目的ホール



交流ルーム

山梨の文化財

県指定天然記念物

本遠寺の大クスノキ（南巨摩郡身延町大野）

（平成二十四年八月三十日）

本遠寺（ほんのんじ）は、徳川家康の側室お万の方の帰依を受けた日遠上人が慶長十四年（一六〇九年）に建立したと伝えられている。

本樹は、本堂の前に立つクスノキ科のクスノキで、樹高十九メートル、幹囲七・三メートルあり、暖地植物であることから本県が北限に近く、これほどの巨樹は県内では希である。根元が広く張り、地上より四メートルで三幹に分かれている。元々五幹



あり、北側の二幹は枯れた痕跡があり、その痕跡の周りは大きな瘤になっており、根本周りよりも上部の枝分かれ部分の方が大きくなっている。主幹の内側は、空洞になっているが、樹勢は旺盛で上部で大きく枝を広げている。本樹は、寺が建立された以降に植樹されたものと思われるが記録は無く、樹齢は推定で三百年から三百五十年くらいと思われる。

地元大野区では、寺の御神木として崇められ、毎年新年を迎えるにあたり注連縄を飾ったり、葬儀の際には、葬列が本樹を中心に右回りに三回廻る習わしがあるなど地元の人々との深い結びつきがあることが伺える。

主な行事予定

県立美術館

特別展

「望月春江とその時代」

4 / 27 ~ 6 / 9

県立博物館

富士の国やまなし国文祭記念事業

「水の国やまなし―信玄堤と甲斐の人々―」

3 / 30 ~ 5 / 27

県立考古博物館

「山梨の遺跡展2013」

3 / 9 ~ 4 / 7

春季企画展

「武田と城と城下町」

4 / 27 ~ 6 / 30

県立文学館

特設展
「富士山と文学」

4 / 27 ~ 7 / 7

表紙を飾る



県立甲府西高校

第2学年 千野 希帆子

作品タイトル

「女子高生」

（平成24年度県高等学校芸術文化祭美術・工芸部門 芸術文化祭賞 受賞作品）

蝶のように華やかに映る女子高生ですが、「機械のような日々だ」「逃げ出したい」、そう感じることも多々あります。そんな中でも限りある今を、前を見て自分を見失わず生きたい、そんな感情を少女に託しました。絵の完成の傍らには、支えていただいた多くの方がいます。ずっと見守って下さった方。たいせつな言葉をかけて下さった方のおかげで、私は明日も前を向いていけるのだと感じました。

指導者：堤 春生 教諭

「声かけ あいさつ」みんなで実践!!

- ◆教育に関する疑問、質問等がありましたらお気軽に E-mail 又は FAX して下さい。
アドレス：kyouikusom@pref.yamanashi.lg.jp FAX：055 - 223 - 1744
- ◆教育やまなしのバックナンバーがインターネットでご覧いただけます。
URL：http://www.pref.yamanashi.jp/kyouiku/46150769857.html